



詩吟で健康と人の和を作る

苦小牧愛吟会(詩吟)

平成15年に結成された詩吟サークル「苦小牧愛吟会」は、30代〜80代の男女30名が3つの会場週に1度集まり和気あいあいと詩吟を楽しんでいます。詩吟は日本の伝統芸能の一つとして漢詩などを独特な節回しで歌い、詩の情景を表現します。愛吟会では、漢詩のほかに、石川啄木や松尾芭蕉などの詩や俳句、短歌などのほか、相田みつをなどの詩も取り入れているそ

うで、ときには自作のものも吟じるなど、幅広いジャンルの詩で詩吟を楽しんでいます。詩を吟じる時には普段の生活ではあまり使わない腹式呼吸を使つので、最初は難しく感じますが、徐々にコツを掴むことができるそうです。会員の方は「腹式呼吸をすることによって健康に良く、あまり病院にもかからなくなつた」と詩吟が元気の源になつてゐることをハツラツと話してくれました。

普段の練習では、会長の鎌田さんが詩の情景や作者の心情を解説し、吟じるとき表現方法を学びます。会員の方は「歴史や詩の内容を詳しく知ることができ、勉強になります」と詩吟が持つ魅力を話します。練習の成果を発表するため大会に参加しますが、福祉施設への慰問活動も積極的に行なつて



苦小牧愛吟会
事務局 菅原 みえ子 さん
☎74-0963
活動日・ところ
毎週月曜日 住吉コミセン 9時30分~11時30分
毎週火曜日 青葉大成地区集会所 18時30分~21時30分
毎週金曜日 日新町内会館 13時~15時
都合に合わせて好きな会場に参加可能

市民のひろば



今月の表紙



~屋外スケート場~
11月3日(木)、無料開放日のハイランドスポーツセンター屋外スケート場の様子。リンクの氷が溶け出すほどの陽気のなか、部活の練習や多くの親子連れが、氷の感触を楽しんでいました。



ウトナイ湖が国際的に重要な水鳥の生息地として、ラムサール条約湿地に登録されてから20周年を迎え、10月30日(日)に記念イベントが開催されました。ウトナイ湖・野鳥と人との関わりについての講演会や湖岸散策探鳥会のほか、地上15mのスーパードッキから湖を見渡すイベントなどがあり、多くの人が訪れました。参加者は、豊かな自然の恵みウトナイ湖から自然との共生の大切さを再認識していました。

タウンスケッチ

~まちの出来事~



名産品が勢揃い!
東胆振物産まつり!
10月28日(金)から30日(日)までの3日間、東胆振物産まつりが駅前プラザ Zegato で開催。苦小牧自慢のホッキやハスカップなどを使った商品をはじめ、東胆振の食材や地場産品の名産品が勢揃いした会場には、3日間で約1万5千人もの買い物客が訪れ、大変な賑わいを見せていました。所狭しと並ぶ商品の数々に東胆振が食の宝庫であることを実感しました。

勇武津資料館開館10周年記念特別展が開催中です



勇武津資料館の開館10周年を記念し、12月18日(日)まで記念特別展が開催されています。資料館の10年の歩みについて振り返る展示と、貴重な幻の日本地図「ブランドン日本図」やその地図で北海道を旅行した女性探検旅行家イザベラ・バードに関する図書の展示を楽しむことができます。

光輝く伝統工芸の魅力 七宝焼きをしよう開催



11月3日(木)文化の日に科学センターで「七宝焼きをしよう」が開催。親子16組37名が参加し、七宝焼きでバツジ作りに挑戦。デザインを決め、銅板の上に釉薬を均等な厚さに載せて着色します。細かい作業に参加者はみんな真剣な表情。専用の電気炉で焼くと光輝く作品が出来上がりました。

夢 My Dream

ぼくのわたしの



村上 瑛亮くん (明徳小学校6年)

夢はスポーツドクター

とまこまいの子どもたちの夢

少年野球チームで投手として活躍する村上くんには将来、スポーツドクターになるという夢があります。そのきっかけは、肘を故障してお医者さんに治してもらったときに、自分も怪我で困っているスポーツ選手を治してあげたいと思ったからだそうです。少年野球の全ての大会が終了した後、卒業後に野球を続けるため練習を継続しているそうですが、勉強にも意欲的で中学では、英語の勉強も頑張り「たい」と話します。また、スポーツドクターになれば、さまざまな症状の選手を診療するので、将来を見据えて「人の気持ちを良く考えることができる人になりたい」と話す姿からは、強い向上心が伝わってきました。

インタビューしてみました!

将来は「どんな症状も治すことができるドクターになりたい」と、スポーツ障害に困っている人の役に立ちたいとの思いを強く持っています。これからもスポーツを通して経験することや、夢への強い思いを大切に、夢に向かって頑張ってください。

小・中学生の皆さんの「夢」を200字程度に書いて、写真を添えて送ってください